

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	一般国道153号 <small>いこま</small> 伊駒アルプスロード		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局
起終点	自：長野県駒ヶ根市赤穂 至：長野県伊那市美篤		延長	11.6 km		
事業概要	<p>一般国道153号伊駒アルプスロードは、長野県駒ヶ根市赤穂から長野県伊那市美篤に至る延長11.6kmの主要幹線道路であり、国道153号現道の渋滞緩和による生産性向上、中央自動車道の代替路確保及び南北軸の強化による地域観光支援を担う道路である。</p>					
R2年度事業化	H30年度都市計画決定	用地未着手		工事未着手		
全体事業費	620億円	事業進捗率 (令和4年3月末時点)	約1%	供用済延長	0.0 km	
計画交通量	14,600台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 2.1 (1.8)	総費用 (残事業)/(事業全体) 686/2,297億円 事業費：564/1,905億円 維持管理費：115/364億円 更新費：6.5/28億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 2,258/4,891億円 走行時間短縮便益：2,130/4,597億円 走行経費減少便益：111/255億円 交通事故減少便益：16/40億円	基準年 令和4年		
感度分析の結果	<p>【事業全体】交通量変動：B/C=1.9~2.3(交通量 ±10%) 【残事業】B/C=3.0~3.6(交通量 ±10%) 事業費変動：B/C=2.1~2.2(事業費 ±10%) B/C=3.0~3.5(事業費 ±10%) 事業期間変動：B/C=2.1~2.2(事業期間±20%) B/C=3.1~3.4(事業期間±20%)</p>					
事業の効果等	<p>①円滑なモビリティの確保 ・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ・特急停車駅（飯田駅）へのアクセス向上が見込まれる。</p> <p>②物流効率化の支援 ・農林水産業を主体とする地域において農林水産品（米・花き）の流通の利便性向上が見込まれる。</p> <p>③個性ある地域の形を形成 ・飯田駅から上伊那地域の観光施設（高遠城址公園等）へのアクセス向上が期待される。</p> <p>④安全で安心できるくらしの確保 ・第三次救急医療機関（伊那中央病院）へのアクセス向上が見込まれる。</p> <p>⑤災害への備え ・第一次緊急輸送道路として位置づけられている。 ・緊急輸送道路（中央道（伊那IC～駒ヶ根IC）、国道153号）が通行止めになった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する。</p> <p>⑥地球環境の保全 ・自動車からのCO2排出量の削減が見込まれる。</p> <p>⑦生活環境の改善・保全 ・自動車からのNO2排出量の削減が見込まれる。 ・自動車からのSPM排出量の削減が見込まれる。</p> <p>⑧他のプロジェクトとの関係 ・関連する大規模道路事業（国道153号伊那バイパス）と一体的に整備する必要がある。 ・他機関との連携プログラム（リニア関連道路整備事業）に位置づけられている。</p>					

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

- ・一般国道153号伊駒アルプスロード整備促進期成同盟会から早期事業完成を要望。

長野県知事の意見：

一般国道153号は、本県および国土の骨格となる重要な道路であり、「伊駒アルプスロード」の整備により、渋滞緩和による企業の生産性向上、中央自動車道の代替路の確保、リニア中央新幹線長野駅開業を見据えた南北アクセスの強化による観光振興が図られ、本県の活性化にもつながるものと期待しております。

については、事業を継続し、積極的な予算確保と早期完成に向けた事業の推進を強く要請いたします。また、事業の実施にあたっては、一層のコスト縮減に努められるようお願いいたします。

事業評価監視委員会の意見

- ・対応方針（原案）は妥当である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・接続する伊南バイパスは平成30年に暫定2車線で開通済み。
- ・伊那バイパスは現在2工区が事業中であり、令和4年4月に暫定2車線で一部供用開始、全線開通に向けて事業を推進している。
- ・中央自動車道の通行止め時には迂回車両の流入により国道153号で渋滞が発生している。
- ・伊駒アルプスロードは、中央自動車道の災害・事故等に伴う通行止めに対し、並行する国道153号を強化し、信頼性の高い道路ネットワークを形成する等重要な路線となっている。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・令和2年度に新規事業化、事業進捗率は約1%、用地進捗率は0%。（令和4年3月末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・駒ヶ根市赤穂～伊那市美篤（延長11.6km）は、早期の工事着手に向けて調査・設計を推進する。

施設の構造や工法の変更等

- ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。

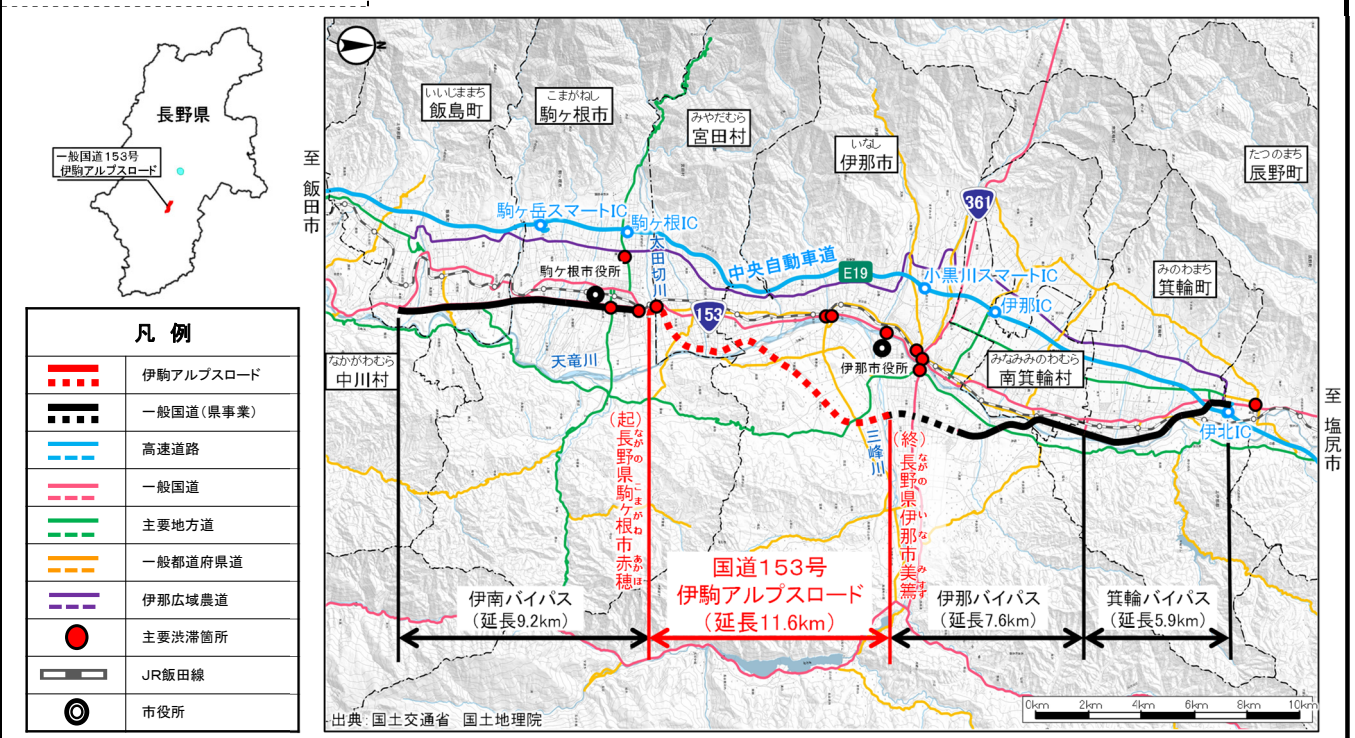
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。